

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1年	1単位	選択必修
担当教員			
鶴岡 浩樹			
添付ファイル			

講義概要	教育学、心理学など多角的な視点から介護福祉領域の人材育成について整理する。個々の専門職の育成だけでなく、組織としての人材育成について実践例を交えながら考えていく。自職場の職員の育成を中心に、他施設や地域住民を巻き込んだ人材育成にまで発展させる。
各回の進行予定	<p>第1回 オトナの学び方 行動主義・認知主義・状況主義、忘却曲線、成人学習論、P-MARGE、協調学習、熟達化</p> <p>第2回 学習モデル 学習転移モデル、経験学習モデル、批判的学習モデル、正統的周辺参加モデル、省察的实践家を育む、職場研修の3つの形態</p> <p>第3回 福祉現場におけるOJT プリセプターシップ、メンターシップ、エルダー制、基本理念を軸とした育成、OJT（特徴、メリット、効果、風土づくり）、ティーチングとコーチング、フィードバック</p> <p>第4回 やる気にさせるには ― 動機づけ理論 外発的動機付け、内発的動機付け、学習性無力感、自己効力、フロー理論、意欲や成長を喚起するために、職場における他者からの支援（内省支援、精神支援、業務支援）</p> <p>第5回 教育デザイン・学習環境デザイン 現場で役立つ研修とは、教育デザイン（インストラクショナルデザイン）、学習環境デザイン、学習する組織（メンタルモデル、共有ビジョン、チーム学習、システム思考）、冰山モデル、SECIモデル、場（Ba）</p> <p>第6回 教育・研修の評価 ― どう評価すればよいか 事前評価、形性的評価、総括的評価、外在的評価、カークパトリックの4段階評価など、評価の手法とそれぞれの特徴</p> <p>第7回 キャリア開発 ― 将来像をイメージさせる キャリア開発、キャリア・サバイバル、キャリア・アンカー、計画された偶然（偶キャリ）、キャリア・コンピテンシー、キャリア段位制度、組織コミットメント</p> <p>第8回 多職種、他施設、地域住民を巻き込む～まとめ 地域に飛び出し、住民教育をいかにしていくか、そのノウハウを考える。 まとめでは全8回を振り返り、社会福祉施設でどのように人材育成を行っていけばよいか整理する。</p>
講義のねらいと到達目標	<p>【講義のねらい】現場で仕事をする事自体が学びであることを理解する。現場で成長するために、後進を育てるために要する様々な理論を習得する。互いに教えあい学びあう組織風土、すなわち「学習する組織」の重要性を理解し、その基礎となるグループワークを体感しながら人材育成に関する知識を獲得する。</p> <p>【到達目標】現場には様々な学習材料があり、自職場でそれに気づき活用できる。省察の重要性を再認識し、批判的思考やシステム思考ができる。チーム学習のノウハウを獲得し自職場で実践できる。</p>
指定教科書(テキスト)	井上由起子、鶴岡浩樹、宮島渡、村田麻起子. 現場で役立つ介護・福祉リーダーのためのチームマネジメント. 中央法規、2019
参考文献・関連URL等	<p>全国社会福祉協議会. 福祉職員キャリアパス対応生涯研修課程テキスト. 全国社会福祉協議会、2013</p> <p>全国社会福祉協議会. 改訂 福祉の「職場研修」マニュアル. 全国社会福祉協議会、2016</p> <p>津田耕一. 福祉現場のOJTハンドブック. ミネルヴァ書房、2014</p> <p>中原淳編. 企業内人材育成入門. ダイアモンド社、2006.</p> <p>中原淳. 経営学習論：人材育成を科学する. 東大出版、2012.</p> <p>金井壽宏、楠見孝. 実践知：エキスパートの知性. 有斐閣、2012.</p> <p>野中郁次郎. 知識経営のすすめ. ちくま新書. 1999</p>
出欠確認方法	教員による目視ならびにリアクションペーパーにて確認する。3回以上欠席した者の単位認定はできない。
成績評価の方法	評価は到達目標の達成状況を踏まえて行う。授業への参加姿勢（5点×8回＝40点）、リアクションペーパーの記載内容（10点×4回＝40点）、レポート20点を総合して評価する。
成績評価基準の内容	60点以上を可とし、60点未満の場合は不可とする。
事前・事後学習のためのアドバイス	授業中に多くのワークを行い、日常の実践場面に活かすことを前提として授業を行う。授業開始時に前授業のリアクションペーパーを振り返り、学びを深める。
他の科目との関連、教育課程の中での位置づけ、キーワード	「組織行動論」「実践の省察と評価」と関連する科目である。
ベンチマーク	この科目で獲得を目指すディプロマ・ポリシーについて次のように優先順位を位置づけています。 1. ア 福祉実践とその現場の創造的な発展に必要な基本的な知識を修得した者 2. イ 理論と実践の両面にわたる能力を備えている者 3. ウ 価値を基盤とした職業的倫理を深く理解した実践的な専門的職業人である者